

学校だより

令和7年3月3日(月) 第11号

心の豊かな生徒・自ら学ぶ生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所 さいたま市岩槻区大字岩槻3750番地

電話 048-756-1117

学校 Web ページ <https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/>

今一度 Well-being を考える

校長 細井博幸

今年は昨年より2週間早く春の訪れを告げる春一番が吹きましたが、春の暖かさよりは冬の寒さを多く感じたような気がします。晴天に恵まれた日も多く、夕方には校舎の西側から美しい富士山と日の入りを楽しむことができます。3月に入り、3年生は卒業までの登校日数が残すところ9日となりました。義務教育9年間で終える卒業式も間近に迫ってまいりました。



西原中から眺める富士山と夕日

先日、さいたま市の教育行政運営の基本的な考え方

や主要な施策などについて示した「令和7年度教育行政方針」がさいたま市議会2月定例会において教育長より表明されました。令和7年度の目指す方向性として「一人ひとりの幸せな人生と豊かな社会の創造を追求する『Well-being（幸せ）を保障する教育』」が示されました。この Well-being（以下「ウェルビーイング」）という言葉は、国の教育政策全体の方向性や目標、施策を定めている「第4期教育振興基本計画（令和5～9年度）」にコンセプトの1つとして「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」と示されたことにより、本市においても令和4年度の教育行政方針から目にするようになりました。

文部科学省の第4期教育振興基本計画のリーフレットでは、ウェルビーイングを、

- ・身体的・精神的・社会的によい状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念
- ・多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念

と説明しています。

また、慶應義塾大学前野隆司教授によると幸せには以下の4つの因子があると言います。

① やってみよう因子（自己実現と成長）

やりがいや強み、目標を持ち、主体性が高い人は幸せ。

② ありがとう因子（つながりと感謝）

つながりや感謝、利他性や思いやりを持つことが幸せ。

③ なんとかなる因子（前向きと楽観）

前向きかつ楽観的でなんとかなるといふポジティブな人は幸せ。チャレンジ精神が大事。

④ ありのままに因子（独立と自分らしさ）

自分と他者を比べ過ぎず、しっかりと自分らしさを持っている人は幸せ。



いずれにも共通していることは、社会的地位やお金、モノなど、人と他人と比較することで得られる幸せだけでなく、健康や環境、愛情ややりがい、自由などお金では買うことのできないことによる幸せが大切であり、前述の前野教授はこうした幸せを「長続きする幸せ」と表現しています。

学校においても、生徒たちの多様な状況に応じた学習者主体の学び、多様な他者と協働した学びや、生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実を通して、生徒たちのウェルビーイングを向上させていきます。しかし学校だけでウェルビーイングは成立しません。幸せの4つの因子を少しでも意識していただくことで、地域、家庭のウェルビーイングの向上が図れることを願っています。また、学校運営協議会を核とした地域、PTAを核とした保護者の皆様との共助もウェルビーイングには欠かすことができません。学校・家庭・地域が「ありがとう因子」を高め合いながら、ともに西原小・中学区のウェルビーイングの向上を目指してまいりましょう。